

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/06/03

「米QE3早期縮小観測」が手掛かり材料

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	RBAは金利より声明文に注目	2-3
		予想レンジ: 92.40 ~ 100.00 円	
<u>NZドル/円</u>	↓	RBNZの金融施策スタンスを注視	4-5
		予想レンジ: 76.70 ~ 82.10 円	
<u>ランド/円</u>	↓	売り材料山積	6-7
		予想レンジ: 9.20 ~ 10.60 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



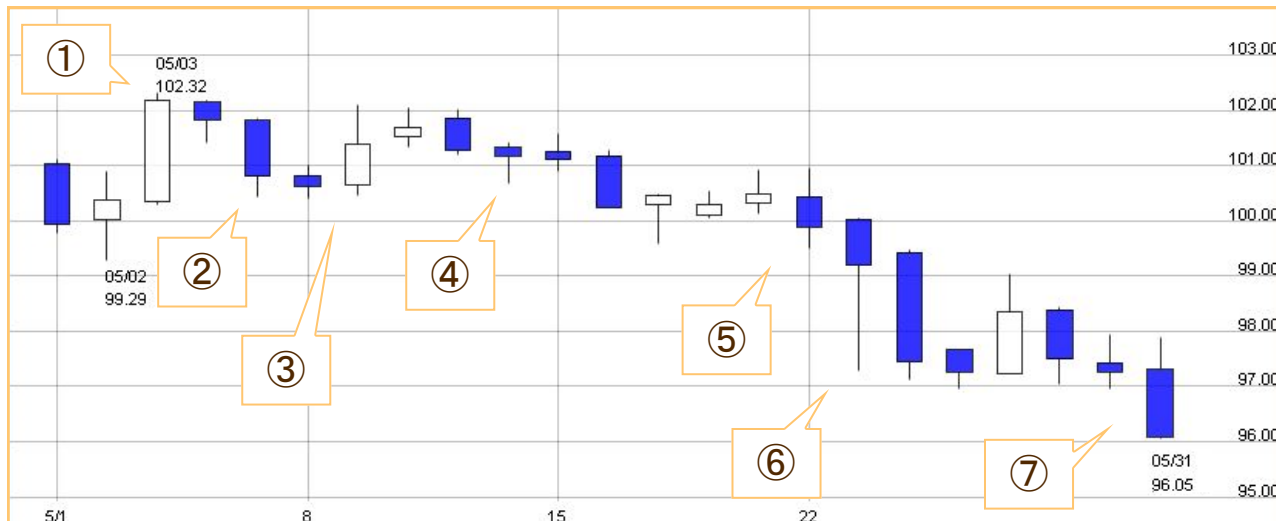
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	101.03円	102.32円	96.05円	96.09円



- ① 3日、予想より強い米4月雇用統計を受けてドル/円が急騰すると、豪ドル/円はこの動きに連れて102.32円まで大きく上昇した。
- ② 7日、豪準備銀行(RBA)は理事会にて、政策金利を0.25%引き下げて過去最低の2.75%とした。声明文では豪ドル高に懸念を示した他、「インフレ見通しが追加緩和余地を与えた」「その余地の一部を使うことにした」として追加緩和の余地を残す内容となった。これらを受けて豪ドルは下落。その後、米株の上げ幅縮小や商品相場の下落を背景にリスク回避ムードとなると、100.43円まで一段安となった。
- ③ 9日、豪4月失業率が5.5%、新規雇用者数は5.01万人増、労働参加率は65.3%と、予想(5.6%、1.10万人増、65.1%)より強い内容を受けて豪ドル/円は急騰。その後、ドル/円が100円を突破して上げ幅を拡大すると、102.11円まで一段高となった。
- ④ 14日、豪政府は、2012/13予算案にて財政黒字目標を15/16年度(前回10月時点では12/13年度)に先送りし、13年のGDP見通しを+2.75%(同+3.00%)に下方修正した。スワン豪財務相の「財政規律はRBAにさらなる利下げ余地を与える」との発言も豪ドルの重しとなり、豪ドル/円は一時100.84まで値を下げた。ただ、格付け会社ムーディーズが「(予算案は)格付け見通しに影響を与えない」との見解を伝えた事を受けて下げ渋った。
- ⑤ 22日、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が議会証言にて「次期尚早の引き締めは景気回復の鈍化や終了のリスクに」と発言。量的緩和第3弾(QE3)の早期縮小・停止観測が後退してドルが全般的に売られ、豪ドル/円は豪ドル/米ドル上昇の影響を受けて100.94円まで上昇した。しかし、議長が質疑応答で「雇用市場の改善が継続すれば、今後数回の会合で資産購入を縮小する可能性」等と発言し、QE3早期縮小・停止観測が強まった他、公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録では「複数のメンバーは経済成長が力強く持続的であれば、早ければ6月にも債券購入のペースを減少させる」等が明らかとなり、NYダウ平均株価が下落。これを受けて豪ドル/円は大きく値を下げた。
- ⑥ 23日、本邦の長期金利の1%台乗せや、予想を下回る中国5月HSBCフラッシュ製造業PMIを受け、16000円目前まで上昇した日経平均株価が1100円超下落。時間外の日経平均先物の急落も重なり、豪ドル/円は一時97.29円まで急落。その後は安く始まった米株の反発を背景に下げ幅を縮小した。
- ⑦ 31日、欧米株安を背景とするリスク回避の動きや、予想を上回る米経済指標を受けた全般的なドル買いの流れからくる豪ドル/米ドルの下落により、豪ドル/円は3月7日以来となる96.05円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

5月の豪ドル/円相場は96.05円～102.32円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.9%の下落(豪ドル安・円高)となった。月初こそアベノミクス期待からくる円安の流れや、米景気回復期待を背景とする「リスク・オン」の動きを背景に上昇するも、長くは続かず。その後はRBAの利下げや豪政府予算案での財政黒字化目標先送りといった国内要因に加え、米国のQE3早期縮小・停止観測からくるドル高の流れ、日経平均株価の急落からくるリスク回避の動き、中国経済の鈍化懸念が重なり、月末にかけて豪ドル/円は下げ足を速めた。

足下で米国のQE3早期縮小・緩和観測が浮上する中、今月は米金融政策に市場の関心が集まりそうだ。7日の米5月雇用統計の結果が強ければ、19日のFOMCでのQE3縮小・緩和縮小期待を織り込む形でドル買いが強まる可能性がある。その場合、豪ドル/米ドルの下げ主導で豪ドル/円相場を下押す材料となりえる。そのほか引き続き、中国経済の行方、本邦株価の乱高下が収束するかも注目したい。

一方、前月30日の「年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が株式投資の比率上昇を容認する可能性がある」との一部報道をきっかけに円売りが優勢となり、豪ドル/円相場を押し上げる場面が見られた。昨年後半以降、大幅な円安が進んでいるだけに、同種の報道があれば円売り材料視されよう。

豪州では、4日に金融政策発表が予定されている。前月30日に発表された豪州の民間設備投資統計にて2013/14年度の設備投資見通しが上方修正された事や、先月に利下げ後に豪ドル/米ドル相場が大きく下げている事などを背景に、RBAによる追加緩和観測が後退している。今回は金利よりも声明文に注目が集まる事が予想され、先月の緩和の効果を見極めるため、早期の追加利下げに慎重な姿勢を示すのであれば、豪ドルが買い戻される事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ:92.40～100.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

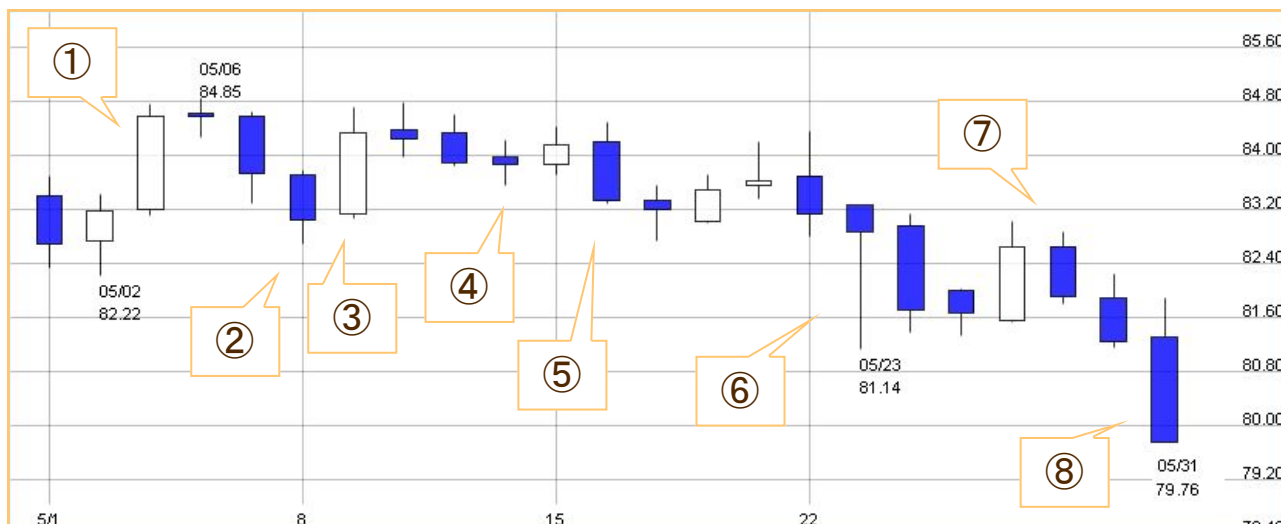
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/1(土)	5月中国製造業PMI	6/9(日)	5月中国消費者物価指数
6/3(月)	4月豪小売売上高		5月中国小売売上高
	5月米ISM製造業景況指数		5月中国鉱工業生産
6/4(火)	第1四半期豪経常収支	6/11(火)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)
	RBAキャッシュターゲット	6/13(木)	5月豪雇用統計
6/5(木)	第1四半期豪GDP		5月米小売売上高
	5月米ADP全国雇用者数	6/14(金)	6月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	5月米ISM非製造業景況指数	6/17(月)	G8首脳会議(～18日)
	米地区連銀経済報告(ページブック)	6/18(火)	RBA議事録
6/6(木)	4月豪貿易収支	6/19(水)	5月日通関ベース貿易収支
	欧州中銀金融政策発表		米FOMC政策金利発表
6/7(金)	5月米雇用統計	6/20(木)	6月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
6/8(土)	5月中国貿易収支	6/27(木)	EU首脳会議(～28日)

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	83.41円	84.85円	79.76円	79.76円



- ① 3日、予想より強い米4月雇用統計を受けてドル/円が急騰すると、NZドル/円はこの動きに連れて84.76円まで大きく値を上げた。
- ② 8日、NZ準備銀行(RBNZ)のウィーラー総裁がNZドル売り介入を行った事を明らかにすると、NZドル/円は90銭近く急落。しかし、メルシュ欧州中銀(ECB)専務理事が追加緩和に否定的な見方を示した事でユーロ/NZドルでユーロ買い・NZドル売りが優勢となると、NZドル/円は82.70円まで反落した。
- ③ 9日、NZ第1四半期失業率が6.2%(予想:6.8%)と、2010年3月以降で最低を記録。これを好感してNZドル買いが優勢となった。その後もドル/円が100円を突破して上げ幅を拡大すると、NZドル/円は84.71円まで一段高となった。
- ④ 14日、NZ第1四半期小売上高指数が前期比+0.5%と予想(+0.9%)を下回った。前回分も下方修正(+2.1%→+1.9%)されたが、NZドル/円の下げは限定的であった。
- ⑤ 16日、全般的なドル高の流れからくるNZドル/米ドルの下げや、米株の下落を嫌気してNZドル/円は軟調に推移。なお、NZ政府は2014/15年度の財政黒字予想を7500万NZドル(昨年12月時点では6600万NZドルの黒字)に上方修正する一方、13/14年度の経済成長率を2.4%(同+2.9%)としたが、NZドル相場への影響は限られた。
- ⑥ 23日、本邦の長期金利の1%台乗せや、予想を下回る中国5月HSBCフラッシュ製造業PMIを受け、16000円目前まで上昇した日経平均株価が1100円超下落。時間外の日経平均先物の急落も重なり、NZドル/円は一時81.14円まで急落。その後は安く始まった米株の反発を背景に下げ幅を縮小した。
- ⑦ 29日、取引終了間際にウィーラーRBNZ総裁が「NZドル高に対応するため為替介入を拡大する用意があり、このような措置は為替の動きをスムーズにするためのもの」と発言。これを受けてNZドル売りが優勢となった。
- ⑧ 31日、欧米株安を背景とするリスク回避の動きや、予想を上回る米経済指標を受けた全般的なドル買いの流れからくるNZドル/米ドルの下落により、NZドル/円は4月4日以来となる79.76円まで下落した。

NZD / JPY

今月のポイント

5月のNZドル/円相場は79.76円～84.85円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.4%の下落(NZドル安・円高)となった。月初こそアベノミクス期待からくる円安の流れや、米景気回復期待を背景とする「リスク・オン」の動きを背景に上昇するも長くは続かず。その後はNZドル高けん制発言といった国内要因に加え、米国のQE3早期縮小・停止観測からくるドル高の流れ、日経平均株価の急落からくるリスク回避の動き、中国経済の鈍化懸念が重なり、月末にかけてNZドル/円は下げ足を速めた。

足下で米国のQE3早期縮小・緩和観測が浮上する中、今月は米金融政策に市場の関心が集まりそうだ。7日の米5月雇用統計の結果が強ければ、19日のFOMCでのQE3縮小・緩和縮小期待を織り込む形でドル買いが強まる可能性がある。その場合、NZドル/米ドルの下げ主導でNZドル/円相場を下押す材料となりえる。そのほか引き続き、中国経済の行方、本邦株価の乱高下が収束するかも手掛かり材料視されよう。

一方、NZ国内では13日に金融政策発表が予定されている。事前のエコノミスト予想では金利据え置きがコンセンサスとなっており、市場の関心はその際に発表される声明に集まっている。声明で足下で過熱する住宅市場に軸足を置く内容となる場合、直後の市場ではNZドル買いの反応が予想されるが、NZドル高懸念を背景に介入を示唆するようならば、NZドル売り要因となりえる。どちらに軸足を置いた内容となるか注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 76.70～82.10円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

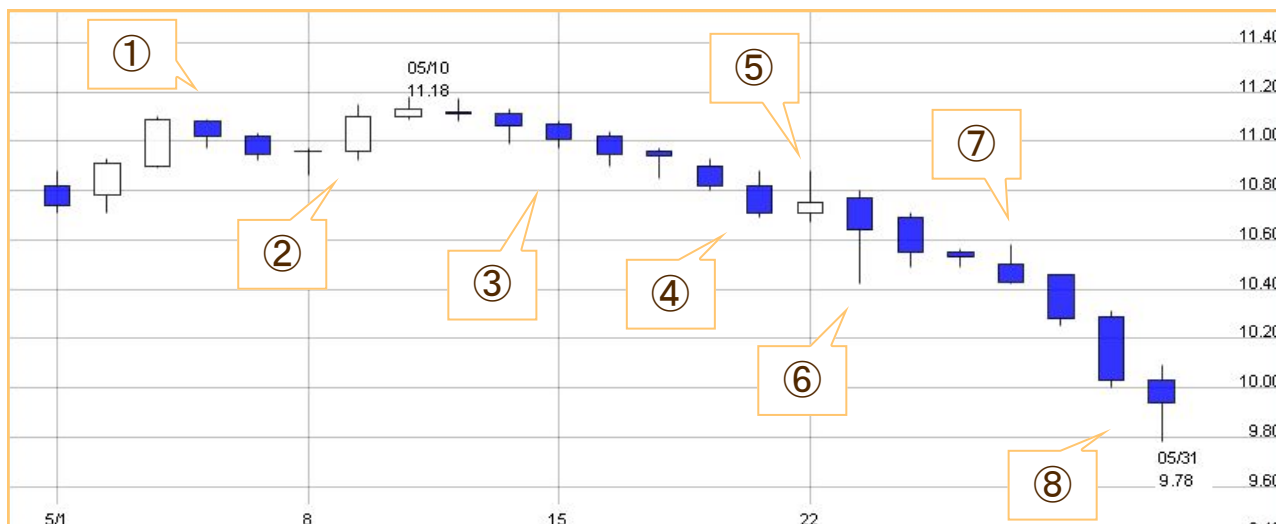
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/1(土)	5月中国製造業PMI	6/13(木)	RBNZオフィシャルキャッシュレート
6/3(月)	5月米ISM製造業景況指数		5月米小売売上高
6/5(木)	5月米ADP全国雇用者数	6/14(金)	6月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	5月米ISM非製造業景況指数	6/17(月)	G8首脳会議(～18日)
	米地区連銀経済報告(ページブック)	6/19(水)	第1四半期NZ経常収支
6/6(木)	欧州中銀金融政策発表		5月日通関ベース貿易収支
6/7(金)	5月米雇用統計		米FOMC政策金利発表
6/8(土)	5月中国貿易収支	6/20(木)	第1四半期NZGDP
6/9(日)	5月中国消費者物価指数		6月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	5月中国小売売上高	6/27(木)	5月NZ貿易収支
	5月中国鉱工業生産		EU首脳会議(～28日)
6/10(月)	第1四半期NZ製造業売上高	6/28(金)	5月NZ住宅建設許可
6/11(火)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.82円	11.18円	9.78円	9.94円



- ① 6日、南ア第1四半期失業率が25.2% (予想: 25.1%)となるも、市場の反応は限定的であった。
- ② 9日、ドル/円が100円を突破して上げ幅を拡大したのに連れて、ランド/円は11.15円まで上昇。なお、リプトン国際通貨基金 (IMF) 筆頭専務理事の「(南アは)現時点では景気促進や雇用状況の改善が最優先」との発言を受け、一部で南ア準備銀行 (SARB) の利下げ観測が浮上するも、反応は限られた。
- ③ 15日、南アのプラチナ鉱山での違法ストが2日目に突入した事が嫌気され、ランド/円は下落。なお3月実質小売売上高は前年比+2.8%と予想(+2.4%)を上回るも、反応は薄かった。
- ④ 21日、南アにある独自自動車大手の工場でのストを嫌気して、ランド/円は一時10.69円まで値を下げた。
- ⑤ 22日、バーナンキ米連邦準備制度理事会 (FRB) 議長が議会証言にて「次期尚早の引き締めは景気回復の鈍化や終了のリスクに」と発言。量的緩和第3弾 (QE3) の早期縮小・停止観測が後退してドルが全般的に売られた。ランド/円はドル/ランド下落 (=ランド高) の影響を受けて10.88円まで上昇。しかし、議長が質疑応答で「雇用市場の改善が継続すれば、今後数回の会合で資産購入を縮小する可能性」等と発言し、QE3早期縮小・停止観測が強まった他、公表された米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録では「複数のメンバーは経済成長が力強く持続的であれば、早ければ6月にも債券購入のペースを減少させる」等が明らかとなり、NYダウ平均株価が下落した事を受け、ランド/円は10.69円まで大きく値を下げた。なお、南ア4月消費者物価指数は前年比+5.9%と予想(+5.7%)を上回ったが、反応は一時的であった。
- ⑥ 23日、本邦長期金利の1%台乗せや、予想を下回る中国5月HSBCフラッシュ製造業PMIを受け、16000円目前まで上昇した日経平均株価が1100円超下落。時間外の日経平均先物の急落も重なり、ランド/円は10.42円まで大幅下落。なおSARBは政策金利の据え置きを決定し、声明では「世界情勢を踏まえて同国経済が不安定な環境に置かれる中、雇用やインフレのリスクを配慮すると更なる金融緩和の余地は現段階では限られる」としたため、直後の市場は小幅ながらランド買いで反応した。
- ⑦ 28日、南ア第1四半期国内総生産 (GDP) は前期比年率+0.9%と予想(+1.6%)を大きく下回った事を受け、南ア準備銀行 (SARB) の利下げ観測が浮上。ランド/円は大きく値を下げた。
- ⑧ 31日、欧米株安を背景とするリスク回避の動きや、予想を上回る米経済指標を受けた全般的なドル買いの流れによるドル/ランドの上昇により、ランド/円は1月24日以来となる9.78円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

5月のランド/円相場は9.78円～11.18円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約8.0%の下落(ランド安・円高)となった。月初こそアベノミクス期待からくる円安の流れや、米景気回復期待を背景とする「リスク・オン」の動きを背景に上昇するも長くは続かず。その後は南ア国内でのスト発生によるカントリーリスクの浮上や、高い失業率や第1四半期GDPの下振れからくる同国の利下げ観測を嫌気して、下落。米国のQE3早期縮小・停止観測からくるドル高の流れ、日経平均株価の急落からくるリスク回避の動き、中国経済の鈍化懸念といった国外要因もランド相場の重石となり、ドル/ランドが2009年3月以来の高値を記録(＝ランド安)するなど、ランド売りが優勢の月となった。

足下ではランドを買う材料が乏しく、米国のQE3早期縮小・緩和観測が、ランド/円相場の重石となりそうだ。7日の米5月雇用統計の結果が強ければ、19日のFOMCでのQE3縮小・緩和縮小期待を織り込む形でドル買いが強まる可能性がある。その場合、ドル/ランド相場でドル買い・ランド売りが強まってランド/円相場を下押す材料となりえる。そのほか引き続き、中国経済の行方、本邦株価の乱高下が収束するかも手掛かり材料視されよう。

一方、南ア国内では、国内経済の減速を背景に、SARBが緊急に利下げを行うとの観測が浮上している。今月発表される同国の経済指標が予想より弱いものが相次ぐようだと、利下げ観測が高まってランド相場を押し下げる事も考えられる。ストが長期化するとの見方が出ている事も、重石となりそうだ。ただし、市場の見方がランド売りに傾いている時だけに、スト終息報道などが引き金となってランド売りの動きが巻き戻される事もあり得る。関連報道には注意したい。(川畑)

(予想レンジ:9.20～10.60円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

6/27 (木)	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/1(土)	5月中国製造業PMI	6/12(火)	4月南ア実質小売売上高
6/3(月)	5月米ISM製造業景況指数	6/13(木)	5月米小売売上高
6/5(木)	5月米ADP全国雇用者数	6/14(金)	6月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	5月米ISM非製造業景況指数	6/17(月)	G8首脳会議(～18日)
	米地区連銀経済報告(ページブック)	6/19(水)	5月日通関ベース貿易収支
6/6(木)	欧州中銀金融政策発表		5月南ア消費者物価指数
6/7(金)	5月米雇用統計		米FOMC政策金利発表
6/8(土)	5月中国貿易収支	6/20(木)	6月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
6/9(日)	5月中国消費者物価指数	6/25(火)	5月南ア生産者物価指数
	5月中国小売売上高	6/27(木)	EU首脳会議(～28日)
	5月中国鉱工業生産	6/28(金)	5月南ア貿易収支
6/11(火)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。